The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	留学生とのメンタリングによる英語学習支援の試み
Author(s)	歳岡, 冴香
Citation	大阪大学高等教育研究. 2016, 4, p. 87-91
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/56233
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

大阪大学高等教育研究　4（2015），87−91

【教育実践レポート】

留学生とのメンタリングによる英語学習支援の試み

歳岡　冴香

Mentoring-based English language learning system - International students as mentors in “HELP!”

Saeka TOSHIOKA

This paper describes the aim and outline of an English language learning support system called “HELP!” or the Harmonized English Learning Program. The project was launched by Osaka University’s Center for International Education and Exchange, with the support of the British Council and the Eiken Foundation of Japan.
The project aims to help local students achieve higher scores on the IELTS (International English Language Testing System) to make them eligible for exchange programs that offer a semester or a full year of study abroad. Each year, more than 100 Osaka University students participate in exchange programs at overseas partner universities; however, many more students struggle to achieve the IELTS score of 6.0 required for eligibility to the programs. Project HELP! will assist those who have already studied on their own but need additional support to succeed.
In addition, the project will also contribute toward accelerating the campus’ globalization; it will encourage interaction between international students and Japanese students by pairing them as mentors and mentees. The mentors will first complete an intensive two-day course on the IELTS, so that they are well prepared to teach their mentees. After every mentoring session, the mentees will leave notes on a web-based mentoring support system called “MEnTOR” to indicate their progress in learning. This record will also be shared with their mentors.

Keywords : English language learning support, mentoring, international students

1. はじめに

スーパーグローバル大学創成支援事業のもと，大阪大学は海外派遣留学生数の増加を目指している．グローバル化の進む現代，在学中に十分な英語力を身につけ，海外の大学生と共に学ぶ機会を得ることは，卒業・終了後にどのような場所で活躍するにせよ，大いに役立つと思われる．

しかし，海外留学に必要な語学力の欠如が，経済的負担と並び，留学を志す大学生の大きな障壁であることは，これまでにも指摘されているとおりだ（樋口，2012）．大学生の海外留学を後押しするためには，彼らの語学力向上をサポートすることが欠かせない．

英語圏に限らず，海外の多数の大学が教授言語として英語を使用している．そのような海外の大学へ留学するためには，英語検定試験で必要なスコアを取得する必要がある．たとえば，大阪大学の交換留学制度を利用して協定校へ留学をする場合，IELTS（International English Language Testing System）で6.0以上，もしくはTOEFL iBT（Test Of English as a Foreign

所　属：大阪大学国際教育交流センター
Affiliation : Center for International Education and Exchange, Osaka University
連絡先：大阪大学国際教育交流センター　歳岡冴香　電話・FAX：06−6879−4659　電子メールアドレス：toshioka@ciee.osaka-u.ac.jp

Language, Internet Based Test）で79以上というスコアを，応募時点で手にしていなければならない．

これらの語学検定試験で高得点を収めるためには，リスニング，リーディング，ライティング，スピーキングの4セクション全てにおいて，バランス良く点数を獲得することが望ましい．英語力の向上には，自律的，継続的に学習を進めることが必要だ．しかし，特にライティングやスピーキングに関しては，個人での学習には限界があり，他者の助けを受けて学習することが効果的な場合もある．

このような背景を鑑み，大阪大学国際教育交流センター短期プログラム開発研究チームでは，大阪大学で学ぶ留学生とのメンタリングによる英語学習支援プロジェクト，HELP!（Harmonized English Language Program）を開始した．これは，一定の英語力をもつ留学生がメンターとなって，留学を念頭に語学検定試験で必要なスコアを獲得することを目指す大阪大学学生に，英語学習のためのメンタリングセッションを提供するものである．HELP! 実施担当教員は，国際教育交流センター短期プログラム開発研究チームの近藤佐知彦教授，宮原啓造准教授，歳岡冴香特任助教，HELP! 運営担当事務職員は，同チームの遠藤美紀氏である．

ブリティッシュ・カウンシルと日本英語検定協会の協力のもと，メンターとなる留学生には，事前研修として，IELTSテスト内容および教授法に関するトレーニングセッションを提供する．本プロジェクトに参加する英語学習者は，原則としてメンタリング終了後にIELTSを受験する．

後述のように，留学生の協力を得て英語学習支援を実施する取り組みは他大学にもみられるが，個別のメンタリングを継続的に提供する取り組みは他に例を見ない．同プロジェクトはグローバル化の進む大学環境を活かした英語学習支援の先駆けであり，その実践と効果検証は，今後の大学における英語学習支援に有益な示唆を与えるだろう．

HELP! は，2015年10月に運用を開始したばかりである．したがって実践とその効果についての詳細な議論は別稿に譲り，本稿では同プロジェクトの意義及び概要を中心に述べ，最後に現在進行中の実践の一部と，今後のプロジェクト進行予定を紹介する．

2. メンタリングによる英語学習支援の意義

英語学習支援プロジェクトHELP! の主な目的は，留学を目指す英語学習者をサポートすることだ．さらに副次的な効果として，留学生と一般学生のキャンパスにおける交流を活性化させることが期待できる．以下では関連の先行研究と，他大学における類似の試みを挙げながら，同プロジェクトの目的と予測される効果を述べる．

HELP! はメンタリングによる英語学習支援である．先行研究では，英語学習におけるメンタリングやそれに類した活動の効果が指摘されている．たとえば，松田・本名・加藤（2005）は，メンタリングが自律的・継続的な英語学習を支援する効果があると述べる．IELTS等の語学試験で目標スコアを獲得するためには，そのような英語学習が欠かせない．したがって，メンタリングの活用は，IELTS受験を念頭に置いた学習に適しているといえる．

また，英語のライティング指導に関しては，学習者が自分の作文にフィードバックを得ることの重要性が指摘されている．Noro（2014）は，大学生英語学習者を対象に実施した調査に基づき，学習者が自分の書いた英作文を客観的に振り返り分析した後，それに対し教員が適切なコメントを与えることが，学習者のメタ認知能力を育み，英作文の上達に効果をもたらすと述べている．なお，このようにメタ認知能力の育成が，英語力の伸長を促すことは，Nagretti and Kuteeva（2011）でも指摘されている．

以上のように，英語学習者にメンタリングを提供し，フィードバックを与えることで，学習者の自律的な英語学習をサポートし，英語力を向上させる効果が期待できるといえる．

一方，英語学習支援に留学生の協力を得る取り組みは，他大学でも行われている．たとえば，森村・ヨルグ（2014）では，東京大学における留学生のティーチングアシスタントによるアカデミックライティング支援が紹介されている．森村・ヨルグ（2014）は，この取り組みが，「日本人学生の英語ライティング力の向上と，留学生の能力の活用を同時に可能にする」と述べる（566）．

これに関しては，HELP! についても同様のことがいえるだろう．英語を母語としない留学生にも，高い英語力を持つ学生は多い．たとえば協定校から大阪大学への交換留学生として受け入れている留学生は，IELTS 6.0以上の英語力を持つ．英語学習者がそのような留学生に，英語学習支援を受けることは有益だ．さらに，HELP! では，1回の英語指導ではなく，合計8回におよぶメンタリングセッションを重ねる．そのため，特に来日後日も浅い留学生にとっては，英語学習支援を行うこ

とが，交友関係を広げる機会となる．

これらの点で，HELP! におけるメンタリングは，留学生から英語学習者への一方的な知識の授与にとどまらず，両者が互いに学び合う，協働活動の側面をもつといえる．協働活動を通じて参加者が共に学び合うことができ，自発的に新たな気付きや学びを得る傾向があることは，これまでの筆者の協働活動実践からも明らかである（歳岡，2014）．さらに，これらの個人のレベルでの交流，学習活動の活性化は，キャンパスの国際化につながる好循環を生み出すことが期待できる．

3. HELP! 実施方法について

英語学習支援プロジェクトHELP! の実施方法を詳述する．このプロジェクトでは，メンター（留学生）とメンティー（英語学習者）が，定められた数のメンタリングセッションを行い，その様子を，ウェブシステムMEnTOR上の「カルテ」に記録する．以下では，このプロジェクトを構成する4つの要素：1メンター参加者，2メンティー参加者，3メンタリングセッション，4，ウェブシステムMEnTORについて説明する．

3.1 メンター参加者

メンターとなる学生は大阪大学で学ぶ留学生で，かつ一定の英語力をもつ学生である．学生は，専用ウェブサイト上に掲載された次の参加条件を確認し同意の上，メンターとして参加を申し込む．

メンター参加条件：

1. 正規生・非正規生を問わず大阪大学に学籍を置く学生．
2. 英語母語話者である，もしくはIELTS 6.0あるいはTOEFL iBT 80に相当する英語力をもっていること．日本語を母語として話す場合には，もう一つ別の言語を母語として話すこと．
3. メンタリング期間および事前のメンター研修期間，大阪大学に滞在し，全てに参加できること．
4. プロジェクトに関連し国際教育交流センターが実施する調査に協力をすること．
5. 事前に行われるメンター研修の全てに出席できること．

メンター参加者は，メンタリング開始前に，ブリティッシュ・カウンシル派遣講師が提供するメンター研修への出席が義務付けられる．この研修でメンターとなる留学生は，IELTSの概要や，メンタリングで使える学習活動の方法を学ぶ．さらに，この研修でメンターは，日本英語検定協会の提供する資料と講演から，日本人大学生の一般的な英語学習歴，英語力の傾向を学ぶ．

3.2 メンティー参加者

メンティーとして参加する者は，次の参加条件を承諾する必要がある．参加者には初回オリエンテーション時に同様の内容を記載した用紙を配布し，内容を理解したうえで参加同意の署名をし，提出するように呼びかける．

メンティー参加条件：

1. 正規生・非正規生を問わず大阪大学に学籍を置く学生．
2. 国際教育交流センター短期プログラム研究開発チーム教員による留学相談を受け，Project HELP! の趣旨を十分に理解している者．在籍期間中に短期留学もしくは卒業・終了後に長期での留学を志す者であることが望ましい．
3. Project HELP! に参加してからおおむね6ヶ月の間に，IELTSの受験をする者．具体的には，既に受験の申し込みを済ませている者，もしくは6ヶ月以内の受験日を指定して受験の申し込みを計画している者．
4. メンタリング実施後のIELTSで獲得したスコア詳細の報告も含め，国際教育交流センターが実施する調査等に協力できる者．

メンティー参加者にはメンタリング開始前に，1）課題英作文と，2）英語力セルフチェック提出を呼びかける．

1）課題英作文：自己紹介エッセイ（英語）

250語以上の自己紹介エッセイをWord ファイルで作成する． エッセイの内容は自己紹介に関するものであれば特に定めはないが，①HELP! にメンティーとして参加したいと思った理由 ②英語学習における目標，この2点は必ず含める必要がある．

2）英語力セルフチェック

リスニング，スピーキング，ライティング，リーディングの技能について，CEFR（Common European Framework Reference for Language）のレベルA2,

B1，B2，C1のいずれに相当するかを自己診断し提出する．どの技能を集中的に伸ばしたいかも記述する．

1）と2）は，メンティーとメンターが対面する初回オリエンテーション時に，各メンティーを担当するメンターに提供する．

3.3　メンタリングセッション

メンター参加者とメンティー参加者への応募者から，人数や英語力を勘案して参加者を選定後，国際教育交流センターの教職員がメンターとメンティーの組み合わせを決定し，メンター，メンティー一人ずつに，後述する学習支援ウェブシステムMEnTORを使用するためのアカウントを発行する．

メンタリング開始前に，オリエンテーションを実施する．オリエンテーションでは，HELP! の趣旨のほか，ウェブシステムMEnTORの使い方と，メンタリングセッションの進め方を説明し，メンターとメンティーとの顔合わせを行う．さらに補助教材として，IELTS参考書，*TOP TIPS for IELTS Academic*を貸与する．

メンタリングは1回90分，計8回を基準とし，3ヶ月程度で全てのメンタリングを終えることを目安とする．メンタリングの期間中，メンティーとメンターは，後述する学習支援ウェブシステムMEnTORを使用し，学習記録を保存する．MEnTORを使い，メッセージのやり取りや，スケジュールの把握，調整を行うことも可能である．

8回全てのメンタリング終了後，メンターとメンティーは相互評価を行い，これをウェブシステムMEnTORの該当ページに記録する．

3.4　学習支援ウェブシステムMEnTORについて

MEnTORは，HELP! のために開発された学習支援ウェブシステムであり，「カルテ」機能を使って，主にメンタリングの履歴や成果等の記録を残すために使用する．

「カルテ」とは，メンティーと担当メンターの両方が記入，閲覧することができるページである．各メンタリングセッション終了後に，メンティーは「カルテ」上に，その日のメンタリングの記録を記入する．ライティング等の成果物を保存することも可能である．メンターはメンティーの記入した「カルテ」に助言等のコメントを加える．カルテ上のコメントや成果物は，国際教育交流センターの担当教職員も確認することができる．

図１　メンタリングカルテ画面

この他に，ウェブシステムMEnTORには，プロフィール作成，メッセージ送受信（メンター，メンティー間のメール送受信，担当教職員へのメール送受信），カレンダー（スケジュール）の共有，メンター，メンティーの相互評価記入機能がある．

4. 現在進行中のメンタリングに関する報告

HELP! は，2015年10月より運用を開始し，全てのメンタリングセッション8回分を終了したというメンター，メンティーはまだいない．参加者は各々のスケジュールでメンタリングを進めているが，現状を一部報告する．

まず，メンターとなる留学生の公募は，KOAN，インターナショナルカレッジ学生への通知，OUSSEP（大阪大学短期留学プログラム）参加学生への通知，O+Pus放映，総合図書館へのポスター掲示により行い，メンターへの応募者総数は22名であった．一方，メンティーの公募は，KOAN，O+Pus放映，総合図書館ポスター掲示のほか，オーストラリア春期語学研修参加者への呼びかけ，教員による留学相談利用者への呼びかけにより行い，33名の応募があった．

事前のメンター研修への参加ができず，メンターになることを辞退した学生もいたため，現在プロジェクトに参加しているメンターは17名，メンター数とのバランスを考慮し，18名をメンティー参加者として決定した．

メンタリング開始前に，メンティー参加者に英語力セルフチェックの提出を課し，4技能のうちどの技能を伸ばしたいか目標を尋ねた（複数回答可）．その結果，スピーキング：17名，リスニング：8名，ライティング：8名，リーディング：1名という結果が得られた．英語話者とのメンタリングであるため，スピーキング技能の向上に期待が集まるのは容易に想像がつくが，同時に，

リスニング，ライティングもメンタリングを通じて向上させたいという期待のあることがわかった．

下に抜粋するものは，現在進行中のメンタリングセッションについて，「カルテ」上にメンティーが残した記述である．個人名に該当する箇所を一部改変している．

- Thank you helping me to correct 2 essays. It was really helpful. Especially, I learned how to make my essay look like more connected by using link words. And it is really useful when you tell me to use some different words.
- Today, we focused on speaking English. I enjoyed speaking but I was irritated because I couldn't speak what I wanted to say in English well. I'll make efforts to talk with the mentor fluently.
- I spoke English to communicate with her. To improve my communication skills in English in order to get higher score in IELTS is our goal, so what I prepare for the next meeting would be to think about the topic we discuss.

現時点で採集できるコメントは少なく，メンタリング実施を通じた英語力向上の効果検証を行うためには，さらに時間が必要である．しかし，少なくともこれらの記述より，英語学習者がメンタリングを楽しみつつ，メンターから有益な助言を得ているといえるだろう．

5. 今後の課題とスケジュール

HELP! は運用を開始したばかりであり，今後，参加者のフィードバックに基づき順次改善を行う必要がある．現在の課題としては，メンティー希望者に対しメンターの数が少ないという点がある．母数の違いに起因するところが大きいが，英語学習者の需要に応えるためにも，メンターの数を増やしたい．

次回のメンティー，メンター募集は平成28年4月頃である．より多くの学生の参加を期待している．

受付2015.11.20／受理2016.01.20

謝辞

同プロジェクト実施には，ブリティッシュ・カウンシルの安田智恵氏，日本英語検定協会の平慶彦氏にご協力を頂き，ウェブサイトMEnTORのプログラム構築はアンザスインターナショナル早川楽氏・久米孝明氏にご協力を頂いています．この場を借りて御礼申し上げます．また，プロジェクトの運営における国際教育交流センター遠藤美紀氏のご尽力に感謝申し上げます．

参考文献

樋口健（2012）「動き出す大学生の海外留学」Retrieved from http://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/ dai_databook/2012/pdf/data_06.pdf,accessed on November 19, 2015.

松田岳士・本名信行・加藤浩（2005）「eメンタリングガイドラインの形成とその評価」『日本教育工学会論文誌』vol29, No.3, 239-250.

森村久美子・ヨルグ・エントジンガー（2014）「留学生を活用したEnglish Writing Consultant-バイリンガルキャンパスにおける留学生のリソース活用」『工学教育研究講演会講演論文集』566-567.

Negretti, R. and Kuteeva, M.(2011) "Fostering metacognitive genre awareness in L2 academic reading and writing: A case study of pre-service English teachers" , *Journal of Second Language Writing*, Vol. 20, Issue 2, 95–110.

Noro, T.(2004) "A Study of the Metacognitive Development of Japanese EFL Writers: The Validity of Written Feedback and Correction in Response to Learners' Self-Analysis of Their Writing" *ARELE : annual review of English language education in Japan* ,15, 179-188.

歳岡冴香（2014）「留学生との協働を中心とした海外留学事前教育」，大学英語教育学会第53回国際大会，ポスター発表

参考

HELP! 英語学習者向け説明用ウェブページ
http://osaka-u.projecthelp.jp/request/mentee-applications/
MEnTORログインページ
http://osaka-u.sys.projecthelp.jp/ Help/Login/